

府中市標準学力調査 考察資料

中学校

調査目的

●府中市内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の中学校の1・2年生の生徒
- 調査対象教科は、国語・社会・数学・理科・英語

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

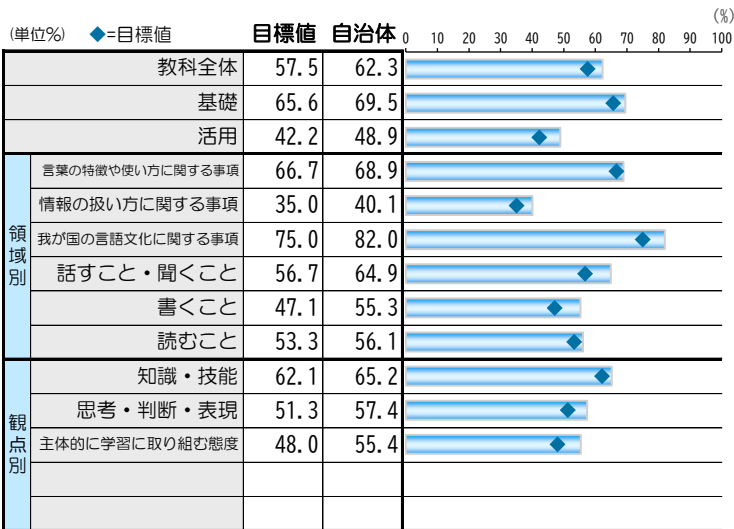
全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

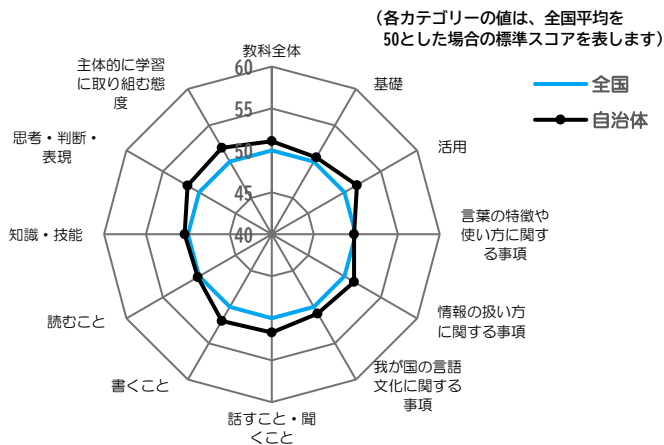
正答率一覧



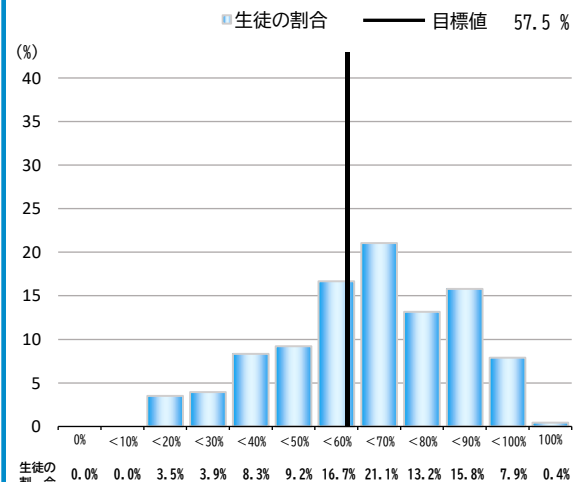
分析 コメント

- 中1国語は、教科全体の正答率が62.3%で、目標値を4.8ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が55.4%で、目標値を7.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

文法・語句に関する事項

大問3(2)

<ねらい> 漢字の部首について理解している。

目標値 45.0% 正答率 29.8% 差 ▲ 15.2 ポイント

指導のポイント 漢字の部首については、小学校で学習している。それを踏まえて、中学校でも、漢字辞典を使った学習などを通して指導していくようにしたい。その際、単に部首を覚えさせるのではなく、意味を考えさせたり、画数を確認させたりするなどの工夫が必要である。

説明的な文章の内容を読み取る

大問4(1)

<ねらい> 文章の内容について叙述を基に捉えている。

目標値 40.0% 正答率 36.0% 差 ▲ 4.0 ポイント

指導のポイント 説明文については、段落ごとの要点を押さえ、それらのつながりを意識して読むように指導する必要がある。文章の内容を正確に読み取っているかを確認するためには、簡単な絵や図を描かせることが有効であり、そうすることで、自分の先入観や認識の誤りに気付かせることができる。

「知識・技能」の定着に課題が残る

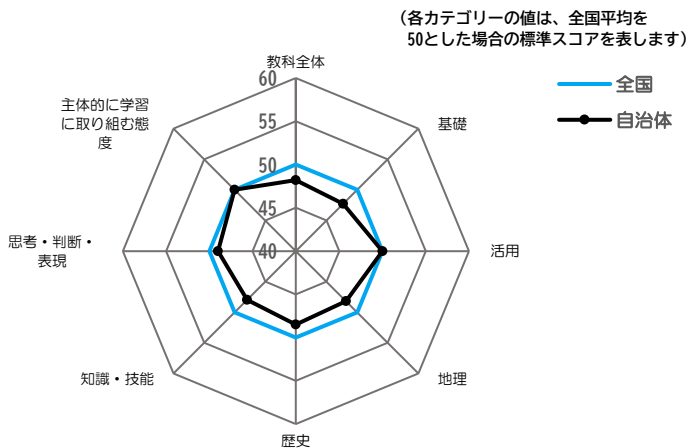
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		51.2	47.5	
基礎		55.5	50.3	
活用		39.4	39.9	
領域別	地理	52.0	48.4	
	歴史	50.3	46.6	
観点別	知識・技能	55.0	50.5	
	思考・判断・表現	44.5	42.3	
	主体的に学習に取り組む態度	39.4	39.9	

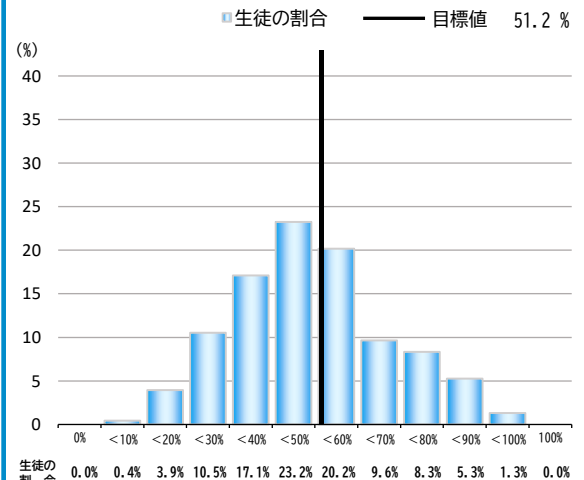
分析 コメント

- 中1地歴は、教科全体の正答率が47.5%で、目標値を3.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が39.9%で、目標値を0.5ポイント上回った。一方、「知識・技能」が50.5%で、目標値を4.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

飛鳥時代～平安時代

大問6(1)

<ねらい> 律令国家への歩みについて考察している。

目標値 50.0% 正答率 30.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント

小学校では、我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きを中心に、資料などを活用して調べる学習を行った。中大兄皇子（後の天智天皇）は、飛鳥時代に関わる人物として取り上げられている。中学校の歴史的分野の学習では、小学校時代の既習事項を振り返り、その知識を生かした授業を展開したい。645年、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒し、天皇を頂点とする新しい政治の仕組みをつくる改革（大化の改新）を始めたこと、663年の白村江の戦いに敗れ、撤退した後、即位して天智天皇となったことを押さえ、その没後に壬申の乱が起きたという流れを確認するとよい。

日本の姿

大問2(1)①

<ねらい> 北方領土について理解している。

目標値 60.0% 正答率 44.3% 差 ▲ 15.7 ポイント

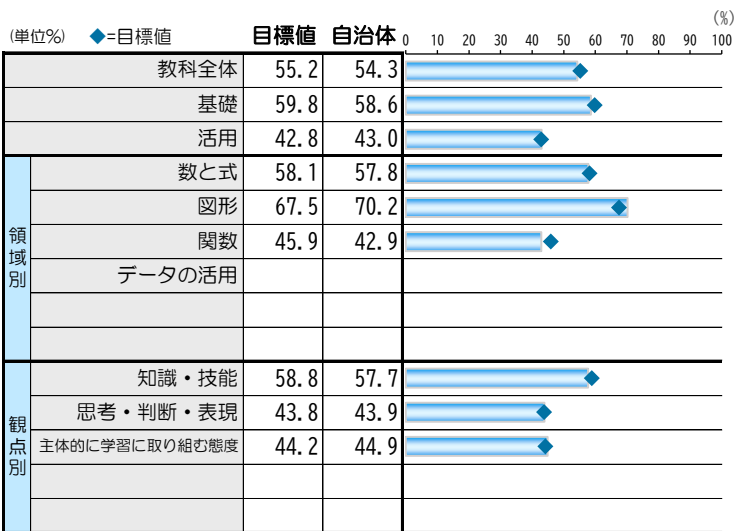
指導のポイント

学習指導要領には、「我が国の領土」を指導することが明確に書かれている。北方領土に関しては、教科書と地図帳を使って具体的に位置を確認させ、歴史的な背景についても指導する必要がある。また、北方領土だけでなく、竹島や尖閣諸島の問題にも触れておきたい。

中1 数学

「知識・技能」の定着に課題が残る

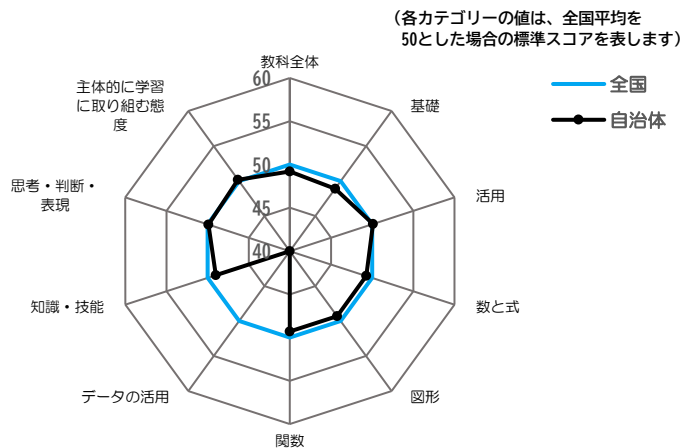
正答率一覧



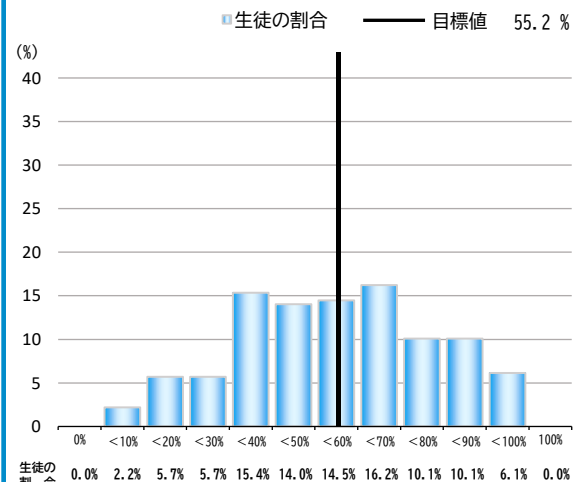
分析 コメント

- 中1数学は、教科全体の正答率が54.3%で、目標値を0.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が44.9%で、目標値を0.7ポイント上回った。一方、「知識・技能」が57.7%で、目標値を1.1ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

比例・反比例

大問17(1)

<ねらい> 与えられた情報から正しい座標を求めることができる。

目標値 25.0% 正答率 9.6% 差 ▲ 15.4 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、グラフ上のA～Gの点と表の値を結び付けられないこと、グラフ上の点の座標を読み取れないこと、違う点の座標を読んでしまったことなどが考えられる。点の座標の求め方について復習させる必要がある。A～Gの点は、並んでいる人数をx人、待ち時間をy分として表にまとめたものを、グラフ上に表したものであることを理解させ、表と対応させながら点Cの座標を求めさせるとよい。また、確認のため、点C以外の点についても座標を求めさせると、より理解が深まる。

正の数・負の数

大問2

<ねらい> 基準をもとに、正負の数を使って通学時間の差を求めることができる。

目標値 70.0% 正答率 59.6% 差 ▲ 10.4 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、問題文の意味が読み取れないことや、正負の数の計算に習熟していないことなどが考えられる。数直線などを使って、AさんとBさんの通学時間が、平均より何分長いかを視覚的に捉えさせ、Bさんの通学時間と平均との差(+7)からAさんの通学時間との差(-5)をひけばよいこと((+7) - (-5))を理解させたい。また、正負の数の計算に習熟していない生徒には、計算しやすい数にした上で、正負の数の加減について復習させるとよい。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

正答率一覧

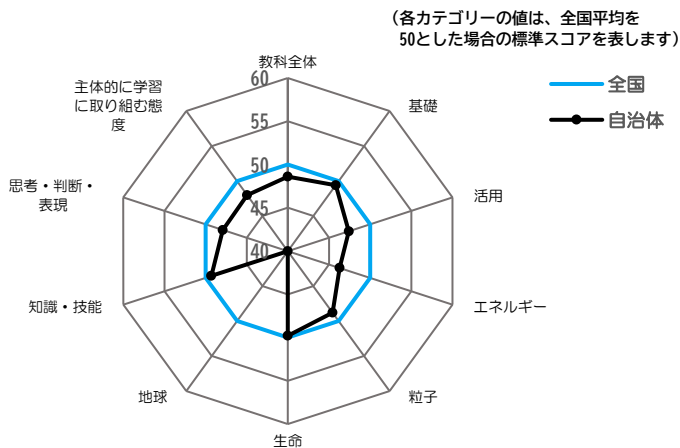
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		52.8	43.9	
基礎		56.3	49.2	
活用		46.8	34.8	
領域別	エネルギー	48.8	26.4	
	粒子	48.8	39.0	
	生命	61.0	58.7	
	地球			
観点別	知識・技能	57.2	50.8	
	思考・判断・表現	47.9	36.0	
	主体的に学習に取り組む態度	49.2	35.2	

分析 コメント

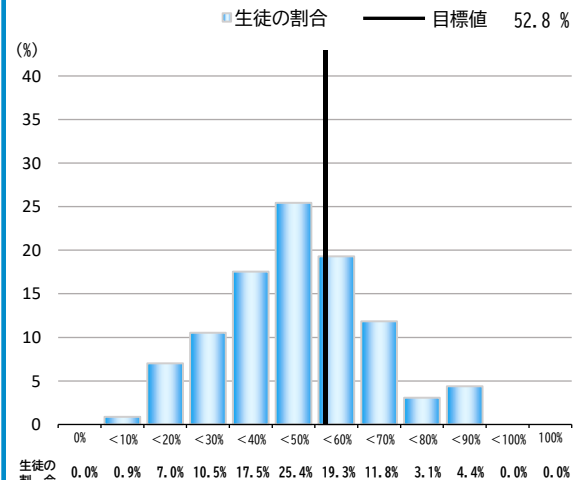
中1理科は、教科全体の正答率が43.9%で、目標値を8.9ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が35.2%で、目標値を14.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

光の性質

大問7(1)

<ねらい> 焦点距離を求めることができる。

目標値 45.0% 正答率 14.5% 差 ▲ 30.5 ポイント

指導のポイント

虫眼鏡で太陽光を集めて紙を焦がす経験を通して、凸レンズの焦点を学ぶ。この経験は印象深いのか、焦点について覚えている生徒は多い。しかし、本問のように像の見え方から焦点距離を推測させると、光が一点に集まっていなかったために戸惑う生徒がいる。凸レンズでは光がどのように進み像ができるのかを丁寧に確認させ、焦点距離の2倍の位置にある物体は、同じ大きさの像がスクリーンに写ることを指摘したい。3つの特殊な光（光軸に平行に進む光、レンズの中央を進む光、焦点を通る光）の進み方と像のでき方を作図で確認させると、理解が進む。

物質の状態変化

大問8(2)

<ねらい> 水と氷の状態のちがいについて、粒子の間隔と運動のようすを説明できる。

目標値 30.0% 正答率 2.6% 差 ▲ 27.4 ポイント

指導のポイント

全体の体積が大きくなったのは、粒子と粒子の間隔が広がったせいであることはイメージしやすいが、粒子間の運動について問われると、その様子が見えないので困惑する生徒がいる。小さな金属球を集めて容器に入れた簡易液体粒子モデルを示すとよい。液体状態では粒子どうしが自由に動けることを指摘して、容器によって形が変わることを確認させたい。温度が下がると、粒子間の動きが制約されてどのようなになるのかを考えさせると、結び付きが強まりしっかりした形ができることに気付くので、生徒の理解が深まる。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

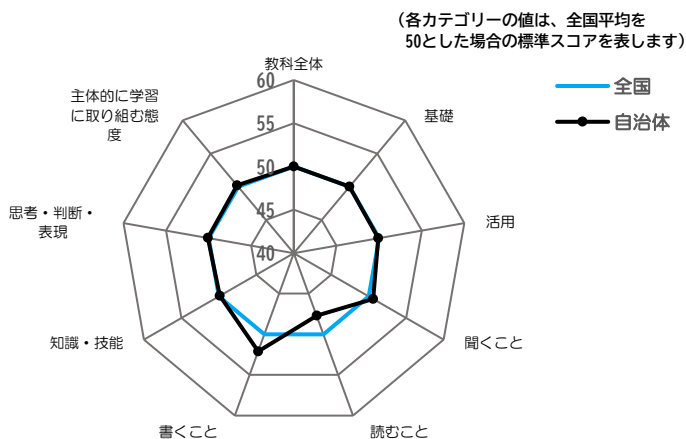
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		61.1	56.7	
基礎		65.2	61.0	
活用		52.5	47.7	
領域別	聞くこと	69.4	65.7	
	読むこと	63.6	54.5	
	書くこと	50.0	52.2	
観点別	知識・技能	70.0	65.5	
	思考・判断・表現	51.7	47.4	
	主体的に学習に取り組む態度	38.6	33.3	

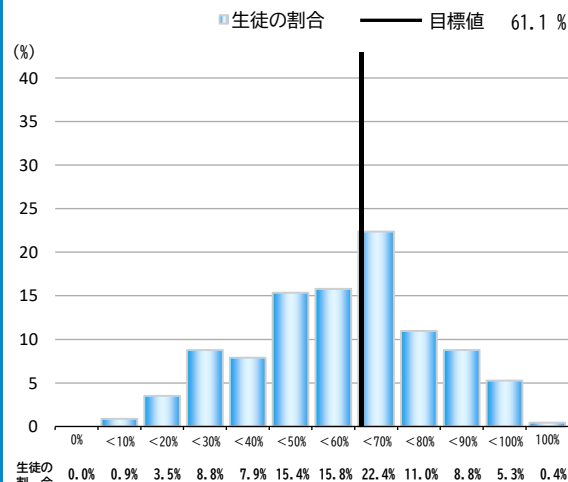
分析 コメント

- 中1 英語 A は、教科全体の正答率が56.7%で、目標値を4.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が33.3%で、目標値を5.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

語形・語法の知識・理解

大問5(1)②

<ねらい>

対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(主語が複数の場合の一般動詞の疑問文)

目標値 60.0% 正答率 15.8% 差 ▲ 44.2 ポイント

指導のポイント

主語が2人で、andでつながれている場合、生徒は誤って最初の1人だけに着目してしまうことが多い。日頃から、主語は誰か、動詞はどれかなどと意識しながら英文を読む練習を重ねさせることが大切である。be動詞だけでなく、do, doesの使い分けや三単現についても、3年間かけて定着を図る内容であることを意識しつつ、粘り強く指導したい。

リスニング (対話文の応答)

大問4

<ねらい>

対話を聞き、必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答えている。

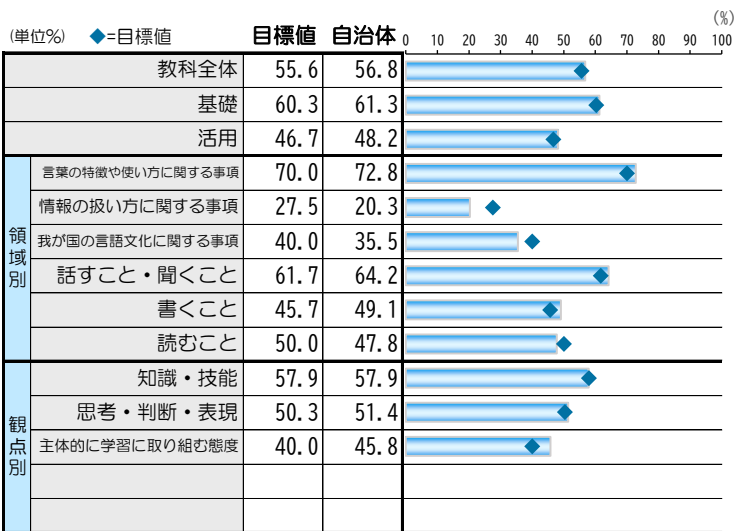
目標値 25.0% 正答率 5.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント

本問では、対話文の中の必要な情報をどのように拾い上げて整理していくか、ということが重要となる。例えば、Japanese activities, art, music, busy from Monday to Fridayなどが頭に残ればよい。情報を記憶に残せる量は生徒によって違うので、リスニング中は常にメモを取るように指導したい。メモは日本語でも英語でもよいし、自分が後で見ても思い出せればよいので、綺麗に書く必要もない。メモを取ることは、将来の入試のリスニング対策や英語検定の対策にもなるので、是非身に付けさせたい力である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

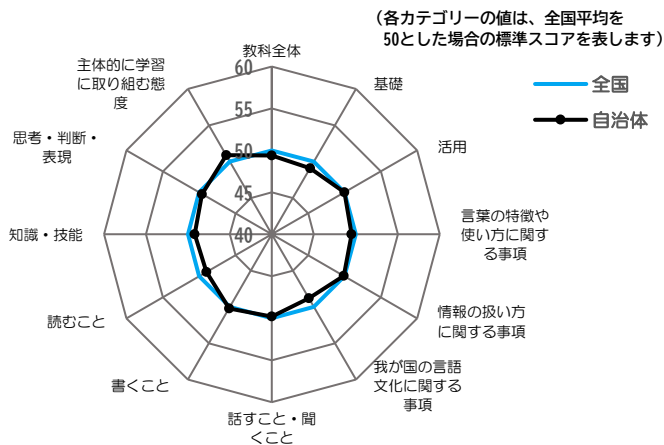
正答率一覧



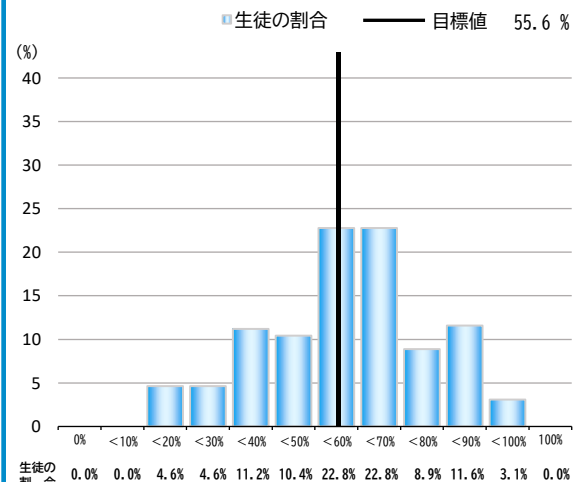
分析 コメント

- 中2国語は、教科全体の正答率が56.8%
- で、目標値を1.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に達している。中でも、「主体的に
- 学習に取り組む態度」が45.8%で、目標値
- を5.8ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

説明的な文章の内容を読み取る

大問4(3)

<ねらい>

情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している。

目標値 25.0% 正答率 12.0% 差 ▲ 13.0 ポイント

指導のポイント

文章を読んで、赤ちゃんとお母さんとの間の「三項関係の理解」について整理する問題である。ここでの整理は、本来は読み手の頭の中で行うものを、目に見える形で図式化したものである。このように情報を整理して関連付ける力を身に付けておけば、情報を整理してプレゼンテーションをしたり、整理しながら新たな発想を引き出ししたりすることが可能となる。説明的な文章の学習で、情報を図式化することにより整理し、それを見て話し合い、自分の考えを書くなどの活動を行わせて、情報の図式化による整理の効果を経験させたい。

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい>

小学校で学習した漢字を正しく書いている。

目標値 45.0% 正答率 37.8% 差 ▲ 7.2 ポイント

指導のポイント

漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変であるが、特に大切なことは、身に付けた漢字の知識を活用できるような場を設定していくことである。小テストを行うだけでなく、生徒どうしが問題を作って出し合うといったように、クイズ形式で学ぶ機会を設けるなど、さまざまな指導の工夫を行っていきたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

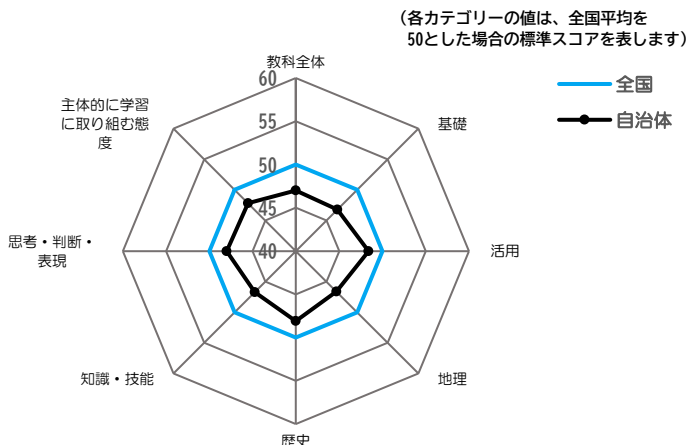
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		47.2	41.6	
基礎		50.2	44.5	
活用		40.0	35.1	
領域別	地理	50.7	44.4	
	歴史	43.7	38.9	
観点別	知識・技能	52.3	45.5	
	思考・判断・表現	42.0	37.7	
	主体的に学習に取り組む態度	42.3	37.1	

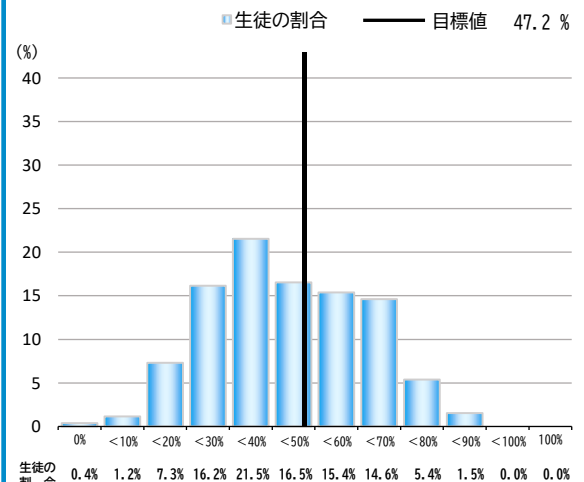
分析 コメント

- 中2地歴は、教科全体の正答率が41.6%で、目標値を5.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が45.5%で、目標値を6.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

日本の地域的特色と地域区分

大問1(3)

<ねらい> 産業の空洞化について理解している。

目標値 50.0% 正答率 24.6% 差 ▲ 25.4 ポイント

指導のポイント まず、日本の工業は、原料や燃料を輸入し、高い技術力で優れた工業製品を作って輸出する加工貿易によって発展してきたことを確認させる必要がある。近年、外国企業との競争の中で貿易摩擦が生じ、日本企業は労働力や市場を求めて中国や東南アジアに工場を移したことから、多くの日本企業が多国籍企業となったことを理解させたい。また、その結果、日本各地の工業地域にも大きな変化が生じるようになり、一部の工業では国内の生産が衰退して、産業の空洞化と呼ばれる現象が見られるようになったことを押さえさせることが重要である。

ヨーロッパ人との出会いと全国統一

大問3(4)②

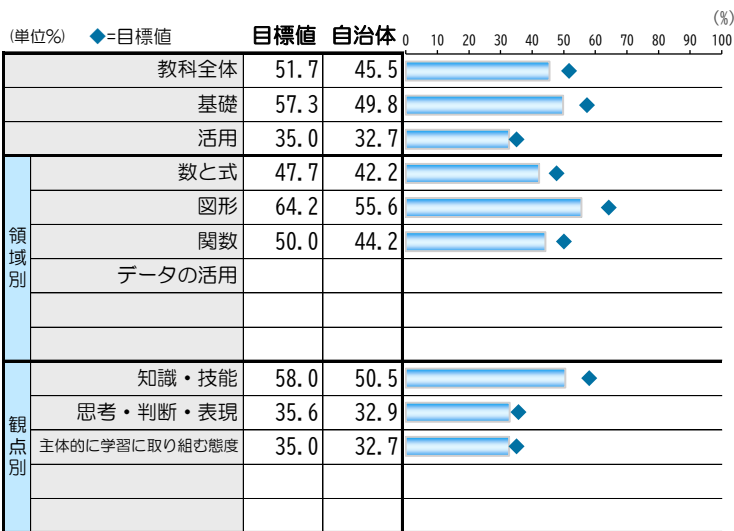
<ねらい> 豊臣秀吉による太閤検地について理解している。

目標値 60.0% 正答率 40.4% 差 ▲ 19.6 ポイント

指導のポイント 太閤検地では、全国の土地を調査し、予想される収穫量を米の体積である石高で表した。その際、それまで地域によって違っていたものさしを検地尺、ますを京ますに統一したため、全国の土地が統一的な基準で表されるようになったことを押さえさせる。検地尺や京ますの写真資料を見せ、どのように使ったのかを考えさせるとよい。太閤検地や刀狩などの兵農分離政策により、武士と農民の身分の区別が明確になった結果、近世の社会の仕組みが固まって社会が安定したことを理解させたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

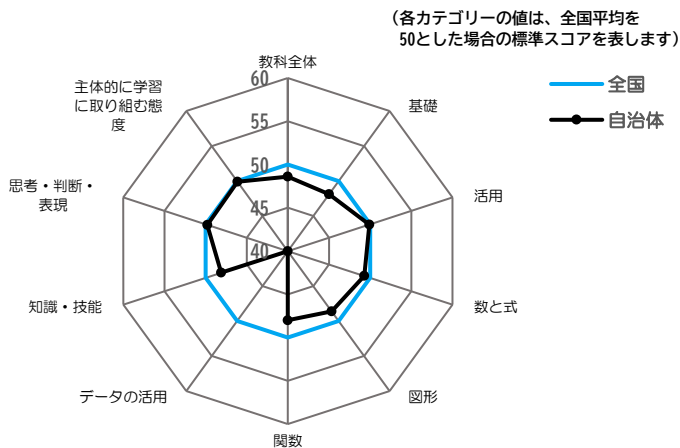
正答率一覧



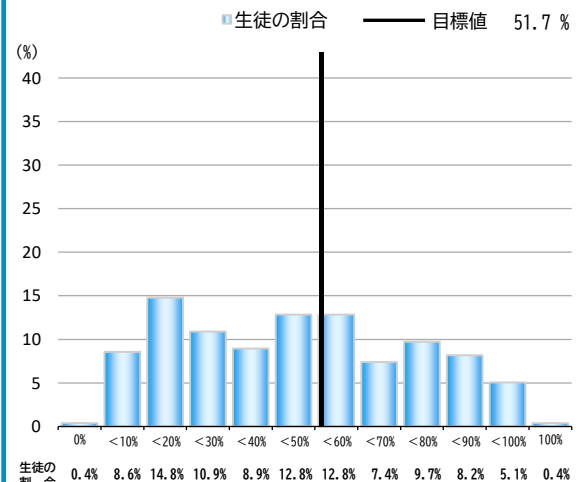
分析 コメント

- 中2数学は、教科全体の正答率が45.5%で、目標値を6.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が50.5%で、目標値を7.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

1 次関数

大問8(3)

<ねらい>

2元1次方程式の解を座標とする点の全体を表したグラフを選ぶことができる。

目標値 45.0% 正答率 28.8% 差 ▲ 16.2 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、2元1次方程式の解の意味を理解していないこと、2元1次方程式のグラフの意味を理解していないことなどが考えられる。2元1次方程式の解を座標とする点全体は、直線になることを押さえさせたい。2元1次方程式 $x + 2y = 4$ の解は無数にあることを確認した上で、この x , y の値を座標とする多数の点を取っていくと、そのグラフは1次関数 $y = -\frac{1}{2}x + 2$ のグラフになっており、傾きが $-\frac{1}{2}$ 、切片が2の直線になっていることを理解させる。

図形の性質

大問12

<ねらい>

図からある角の錯角を選ぶことができる。

目標値 60.0% 正答率 45.5% 差 ▲ 14.5 ポイント

指導のポイント

誤答の主な原因としては、図形の基本的な用語の意味を理解していないことなどが考えられる。例えば、直線 l と直線 n 、直線 m と直線 n の交点にできる4つの角を便宜上、それぞれ右上、左上、左下、右下と呼ぶことにすると、右上なら右上のように同じ位置にある角が同位角であり、2直線 l と m に挟まれた内側の角で、直線 n の反対側にあって相対する角が錯角であることを確認する。問題の図で、「ア」の角の同位角は $\angle b$ と $\angle f$ であること、錯角は $\angle d$ と $\angle h$ であることを確認させたい。

「知識・技能」の定着に課題が残る

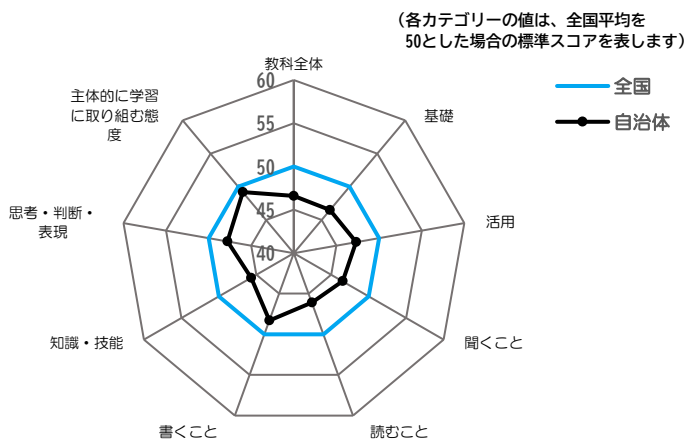
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		59.5	44.5	
基礎		64.0	49.8	
活用		50.9	34.3	
領域別	聞くこと	60.0	46.1	
	読むこと	62.9	48.2	
	書くこと	53.9	36.9	
観点別	知識・技能	68.8	52.3	
	思考・判断・表現	50.3	36.6	
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	30.1	

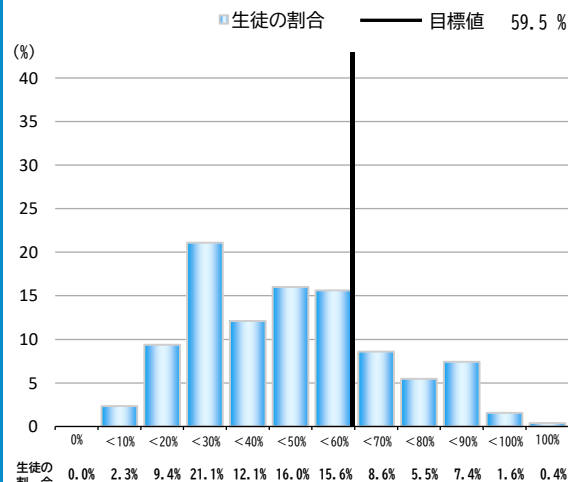
分析 コメント

- 中2 英語 A は、教科全体の正答率が44.5%で、目標値を15.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「知識・技能」が52.3%で、目標値を16.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

単語の並べかえによる英作文

大問9(4)

<ねらい>

文の語順を理解し、正確に書いている。
(副詞的用法の不定詞)

目標値 50.0% 正答率 9.4% 差 ▲ 40.6 ポイント

指導のポイント

本問のような単語の並べかえによる英作文問題において正答できないのは、日頃の練習の不足を意味している。文法導入が終わった後は、練習(パターンプラクティス)が不可欠である。「勉強するために」「手伝うために」などの日本語のキューを英語に直させるパターンプラクティスによって、何回も口頭練習させる必要がある。口頭練習の後にはドリル問題を使用し、書くことによってその表現が定着しているかを確認することが大切である。

さまざまな英文の読み取り

大問7(3)①

<ねらい>

対話を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選んでいく。

目標値 50.0% 正答率 22.7% 差 ▲ 27.3 ポイント

指導のポイント

文章の空欄に入る適切なものを選ぶために必要な情報を判断する力を習得させるには、授業における教科書本文の指導の際に、任意の箇所にオリジナルで1文付け加えさせるプラスワンダイアログが効果的である。これは本文の内容がしっかりと理解されていないとできない活動であり、本文を理解することと同時に、英文を作り出すことの練習にもなる。実際の問題で正答を得るためには、似たような問題を繰り返すことも必要であるが、それ以上に、授業の中で多様な活動を通して英語力を高めることが大切である。